

2018年、
福島の
大地を
守る。

あの日から7年。

福島で漁業を営み続ける人たちに会いに、
福島県の浜通り北部にある
磯部加工組合（福島県相馬市）を訪ねました。



タコをゆでるのは漁師、磯部加工組合職員、運送業者と立場は違えど、福島の漁業を担う若者たち。



- 1 昔から相馬の味として親しまれてきたホッキ貝。
- 2 軽トラックで運んできたヒラメとホッキ貝を、漁師たちと漁協職員で手際よく計量します。
- 3 水産加工の大先輩である島寿雄さんに、ゆでタコを味見してもらいます。
- 4 すっと歯で切れる、しっとりやわらかな仕上がり。
- 5 ゆで終えたタコは氷水にさらして身を締めます。

同時に、福島県で続けられているのが、放射性物質に関する検査です。県によるモニタリング検査では、国の出荷基準値が100Bq/kgのと

以前は地元産の魚介類が並んでいた県内の魚屋や料理屋でも、県外産のものが多くなっている状況です。

福島の漁業では、東日本大震災以降、試験操業が続いています。試験操業とは、出荷が許可された魚種での小規模な操業と販売で、流通先の確保と出荷先での評価を調査するため、試験的に漁業を行うこと。対象魚種は2012年の3種から始まり、2017年の出荷制限魚種を除くすべてとなりました。大々的な漁を行ってきかないことから水産資源も豊富であるものの、漁獲量は震災前の約10%にとどまっています。

工場へと運ばれていきます。

福島の漁業では、東日本大震災以降、試験操業が続いています。試験操業とは、出荷が許可された魚種での小規模な操業と販売で、流通先の確保と出荷先での評価を調査するため、試験的に漁業を行うこと。対象魚種は2012年の3種から始まり、2017年の出荷制限魚種を除くすべてとなりました。大々的な漁を行ってきかないことから水産資源も豊富であるものの、漁獲量は震災前の約10%にとどまっています。

小さな漁港に入ってくる1隻の船。船上の水槽ではヒラメが水しぶきを上げながらパタパタと動き、「大きいのもいるよ」と漁師たちは満面の笑みを浮かべています。ヒラメを樽に移し変えると、その量はわずかずか樽2コ分。続けて入ってきた船のホツキ貝もかご10コを満たしません。ヒラメとホッキ貝は、漁港の目の前にある磯部加工組合(福島県相馬市)の加工場へと運ばれていきます。

とれるけど、とれない。 福島の漁業の今

試験操業の先に 新しい漁業を見る



漁協職員の渡部祐次郎さんは、常に鳴る携帯電話を持ちながら、漁協と磯部加工組合を行き来します。

この、その半分である50Bq/kgを自主基準とし、毎週150〜200Bq/kgを基準とし、水揚げごとに1魚種1検体を検査。県のモニタリング検査において、2017年是不検出が全体の98・1%を占め、2016・2017年の2年間は、国による出荷制限がかかる100Bq/kg超えの検体は一つもありません。

しかし、ウミタナゴ、キツネメバル、クロダイ、サクラマス、シロメバル、スズキ、ヌマガレイ、ムラソイ、ビノスガイ、カサゴの10種類の魚には、今も国による出荷制限がかかっています。矛盾にも見えるこの状況の大きな理由は、同じ魚種を全く同じ場所で漁獲して検査しなければデータを更新できないため。9種類は2012年、1種類は2013年のデータのままとなっているのです。放射性物質をめぐる見方がさまざまある中、このような実態があまり知られていないことも事実です。

震災の津波ですべてを失うも、漁業倉庫や船などが再び並び始めた磯部漁港。





- 6 相馬の名産品の一つであるヒラメも漁を開始しています。
- 7 漁師2人であつという間にホッキ貝をむき終えます。
- 8 大きなものはなんと70cm超え。
- 9 手の平からはみ出んばかりの、ぷりっと大きいホッキ貝のむき身。
- 10 ヒラメは水揚げ後すぐ、丁寧に血抜きを行います。
- 11 水揚げしたてのシラウオはハリがあり、透き通るような美しさ。
- 12 ホッキ貝の身とヒモが店頭と並ぶのは、地元の女性たちのおかげです。

明治時代から漁が始まり、1977年からは資源管理型で行われている相馬のホッキ漁。

漁師、漁協、仲買、 一丸となって

考えるべきことが多い状況下、地元・福島の水産を再建するため、一丸となる選択をしたのが磯部加工組合の皆さんです。「6割の人が海辺に住んでいた相馬市の磯部地区では、津波で、区民の約5分の1、若者も多い漁師の約4分の1が亡くなり、63隻あつた漁船もすべてなくなりましたね」と当時を振り返るのは、相馬双葉漁業協同組合の理事・渡部祐次郎さん。「何もかも失った状態。でもだからこそ、助け合つてなんとかしないと、魚屋を続けられない」と思いました」と磯部加工組合の理事長・島寿雄さんは話します。

水産業では一般的に、漁師・漁協・仲買を経て市場やお店に商品が流通します。磯部加工組合は、島さんを含む仲買を筆頭に漁師・漁協・仲買が一つとなり、利益も不利益も分け合おうと協同組合という形を選択。相馬市により整備された加工場を運営しています。放射性物質測定装置2台を導入し、自主基準25Bq/kgを設け、この加工場から出荷するすべての加工品を検査しています。水揚げしたてのホッキ貝が加工場に届くと、漁師たちが貝ナイフで一つ一つむいていきます。手で身とヒモに分けるのは地元の女性たちの担当。「氷水から取り出してやるから手がかじかむ」と言いながらも、手は機敏に動き続け、おしゃべりで笑顔がこぼれます。奥では、湯気が上がっています。釜から揚げられたのはタコ。水産加工の道30年以上の島さんも味見をしながら、若手の漁師、磯部加工組合職員、運輸業者が一緒にゆで加減を研究しています。「今回はだしてゆでてみました。商品開

発にも力を入れています」とは、SNSで磯部加工組合の情報発信も行う職員の菊地健太さん。「今後は、ファイル加工の機械も導入したいです」と話す渡部さんは、試験操業の先にある未来を見据えています。

自分自身で 福島を考える

大地を守る会は磯部加工組合を通して、「福島応援」シリーズとして福島の水産を取り扱い始めます。自主基準のもと、自社での放射性物質測定も行います。水産担当歴25年の浅海博志は話します。「実は、福島の魚を取り扱う準備を進めていた時に震災が起き、その話は中断となりました。水産物を扱う者としても食べる者としても、考えさせられました。福島県の生産者や、東北他県の大地を守る会の生産者などが経験している苦労も見てきています。考え抜いて、改めて大切だと思ったことは、事実を正確に伝えること。生産者と消費者をつなぐ者として、より一層それに取り組んでいきます」。今、改めて私たちに必要なのは、自分自身で福島を見つめ、考えることです。

COLUMN

福島の漁業のこれから

「福島県の漁業は、常磐物だけでなく、資源管理を行っていることでも知られていました」と語るの、東京海洋大学の教授・川辺みどりさんです。東京海洋大学は、首都圏の人々が福島の魚と出会い、福島の漁師と対話するための場を、大学キャンパスなどで設けています。「漁業は、生産から消費に至る一連の流れがなければ成り立ちません。福島県では、震災翌年から安全性が確認された魚種の売れ行きをみる目的で試験操業を始め、2017年には産地市場のセリを復活させました。今、福島県の水産関係者たちは国際資源管理認証の取得などにも取り組み、震災前への回復にとどまらない、新たな福島の漁業のあり方を探り始めています」。日本人の豊かな魚食を支えてきた福島の漁業の挑戦は続きます。



全国の水産生産者を訪ねて回る、大地を守る会水産担当歴25年の浅海博志。

おしゃべりと笑顔で明るい、磯部加工組合の加工場で働く皆さん。



福島応援・ポイル真だこ

1292 凍 限定500

200g 890円(税込961円)

※同時配布のカタログ『ツチオーネ』

112号16ページも合わせてご覧ください。

※大地を守る会の放射能に対する取り組みや

測定結果についてはホームページをご覧ください。

<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/306>



{ イベント }

編集後記 ↓ 今回、福島を訪れて実感したのは、「福島の今」があまり知られていないことです。二度とやっつこない瞬間を重ねながら、「今」は日々変化していきます。それぞれの考えのもと今をともにし、新しい未来へつながることを願っています。(編集部・大塚)

山形村短角牛の里に訪れる春や人々のぬくもりでリラックス

第7回 山形村短角牛の山上げ&森林体験ツアー 2018.5.11(金)～5.13(日)

冬は人里、夏は山の上で育つ山形村短角牛。「年に1回、母牛と子牛が山に放たれる瞬間を見に行こう!」と始まったツアーです。恐る恐るトラックから降りる子牛たち、広々とした牧野をうれしそうに駆け巡る牛たち。都会では見ることができない光景に、心を打たれること間違いありません。また、植林により緑豊かな山となりつつある旧放牧地で自然と触れ合ったり、日本一の白樺美林を散策したりと、東北の短い春を楽しむことができます。その土地の暮らしを体験できる民宿や、短角牛生産者たちと交流しながらおいしいお肉を堪能できるバーベキューもご用意し、皆さんをお待ちしています。



母親の愛情を受けて健やかに育つ子牛たち。

DATA

訪問先……岩手県久慈市山形町
※JR「二戸駅」集合・解散です。
旅行料金…大人(中学生以上)●30,000円、
子ども(小学生)●18,000円、
未就学児●無料(食事・ふとんなし)
※未就学児で
食事・ふとんが必要な場合、
子ども料金となります。
※代金はすべて消費税込みです。
定員……20名
申込……3月16日(金)まで
旅行条件…添乗員なし、最少催行人数10名
協力……総合農舎山形村、
大地を守る会
森と木の住まいづくりフォーラム、
岩手県久慈市、JA新いわて

旅行企画・実施

株式会社トビシ
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-13
トラスティ六本木ビル5階
東京都知事登録旅行業 第2-62900号
国内旅行業務 取扱管理者 占部やよい
TEL●03-6447-0721
お問合せ受付時間●
10:00～18:00(土日祝休み)



上/広い空と新緑の中で
のびのびと過ごす山形村短角牛。
下/自然や牛たちとふれあう、
ゆったりとした3日間です。
左/初めての牧野に、
子牛たちは恐る恐るトラックから
降り立ちます。

スケジュール(予定)

5月11日(金)【朝食×昼食×夕食○】
二戸駅集合>>山上げ見学>>牛舎見学>>
牛飼体験or
郷土料理「まめぶ」作り体験>>
新山根温泉「べっぴんの湯」着>>
山形村短角牛生産者とのBBQ交流会>>
新山根温泉「べっぴんの湯」泊

5月12日(土)【朝食○昼食○夕食○】
総合農舎山形村工場見学>>
旧放牧地「成谷牧野」でのアクティビティ
(雨天の場合:内間木洞見学)>>民泊

5月13日(日)【朝食○昼食○夕食×】
白樺林散策・自然観察会>>
バッテリー村訪問>>二戸駅解散

※集合・解散場所までの往復交通機関は、各自でご手配ください。
ツアー中の移動は貸し切りバスを利用します。
※旅行代金は、「スケジュール(予定)」で
○の付いた食事代、宿泊代を含みます。
※定員を超えるお申込みがある場合、抽選となります。
抽選結果は3月23日(金)までにお知らせします。
※3月23日(金)に参加者確定後、旅行会社から
詳しいツアーの説明書を電子メールでお送りします。
旅行条件をご確認の上、旅行代金を指定口座にお振込みください。
※小学生以下は3名につき大人(中学生を除く)1名の付き添いが必要です。
※宿泊は、参加者構成により 男女別相部屋になる場合があります。
※添乗員は同行しません。大地を守る会
森と木の住まいづくりフォーラムのスタッフが同行します。
※参加を申し込まれる皆さんと旅行会社との通信は、
電子メールを利用します。
文書が添付できるメールアドレスをお知らせください。
お持ちでない方はその旨をお知らせください。
※参加希望者全員のお名前、性別、
大人(中学生以上)・子ども(小学生)・未就学児の別を、
備考欄にご明記ください。

専門委員会紹介

大地を守る会では生産者会員・消費者会員・社員の有志メンバーが、
特定のテーマのもと、グループ「専門委員会」を作るとともに考え、イベントの
企画・運営や情報配信などさまざまな活動を行っています。

森と木の住まいづくりフォーラム

第一次産業の林業と衣食住の「住」につ
いて考え、行動するため、自然住宅事業
部とともに活動開始。森、山、木という
キーワードのもと、茨城県石岡市の体
験・交流の森「やさもり」でのイベン
トや、山形村短角牛ツアー(上記参照)、
都会の自然観察会などを開催しています。



長野修平さんのネイチャークラフト教室。

おさかな喰楽部

四方を海に囲まれている日本。海は陸の
できごとをすべて受け止めています。当
たり前のようにある海と魚に正面から向
き合うため、1998年に設立しました。魚
を使いこなす料理教室や水産品の産地を
訪問するツアーなどを開催。海と魚を愛
する人々の輪を広げていきます。



船橋漁港でのこどもおさかな教室。

大地を守る・ くらしからエネルギーを考える会

前身の「原発とめよう会」はチェルノブ
イリ原発事故を機に、有機農業と原発は
本質的に相容れないという考えのもと活
動を続け、設立30年の2017年、気持
ちを新たに名称を変更。未来の世代に負
の遺産を残さないよう、エネルギーも暮
らしも持続可能な社会を目指します。



祝島ひじき列ツアー。

“自然素材”の健康賃貸住宅、建てませんか?

土地の活用方法を考える講座

2018.3.25(日) 10:00～12:00

遊休地を持っている、相続する土地があ
る、賃貸併用住宅を建てたい、賃貸オー
ナーで物件を持っている。以上のキー
ワードにピンときた方、自分も住みたくな
るような“自然素材”の「健康賃貸」
はいかがですか? お持ちの土地の活用
方法についてご紹介します。

DATA

会場……オイシックスドット大地
Osaki Farmマルシェエリア(品川区)
※JR「大崎駅」南改札口より徒歩5分
講師……ミドリムシ不動産・宮原元美さん
参加費…無料
定員……18名
申込……3月20日(火)まで
主催……大地を守る会 自然住宅事業部



新築はもちろん、
既存物件のリノベーションも可能です。

※託児はありません。

お申込みはWEBまたは
下記「参加申込み書」から

大地を守る会 イベント

検索



ご記入いただいた個人情報は、
参加申し込みをされた情報に関する確認、連絡、
問合せ、回答(メール・郵送・電話・FAXによる)にのみ
利用させていただきます。なお、業務委託イベントにおいて、
最低限必要な情報に限り個人情報を開示する場合があります。
業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、
業務委託先が契約を遵守するよう
必要かつ適切な管理および監督を行います。
上記に同意の上、お申込みください。
個人情報の取り扱いに関するその他の条件については、
弊社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuai.daichi-m.co.jp/Information/8>

お問合せ

オイシックスドット大地ソーシャルコミュニケーション部
TEL●050-5306-8513
E-mail●csr@member.daichi.or.jp

3月号 参加申込み書

ソーシャルコミュニケーション部行

| | |
|-------|-----------------------|
| イベント名 | 会員番号 |
| 名前 | TEL () |
| 参加人数 | 参加者全員の名前(お子さんは年齢・学年も) |
| 備考 | |

※複数のイベントにお申込みの場合は、「連絡便」などに必要事項を明記の上、ご提出ください。